

# ネギに 今後発生する害虫

# 10月の農作業

## ■ネギハモグリバエ

- 成虫は葉の組織内に産卵し、幼虫は葉の内部に潜入して食害する。
- 食害痕は白い筋状となり、ひどくなると白斑が葉の大部分までになる。
- 幼虫は黄白色の小さなうじで大きくなったものでも4mm程度になる。
- いったん被害を受けた部分は虫がいなくなっても回復しない。
- 白斑が急増するようであれば直ちに防除を行う。



ネギハモグリバエ

ネギハモグリバエ (病変)



**【防 除】** • 蛹で越冬するので連作は避ける。

適用農薬	希釈倍数	使用時期	総使用回数
カスケード乳剤	4,000倍	収穫14日前まで	3回

## ■べと病

- 春と秋に長雨が続きと葉の表面に白いカビが生じ、黄変して枯れる。
- 全身感染したネギは生育が停止し草丈が低くなる。
- 病状が進むと被害株は淡黄色にしおれて枯れる。
- 二次感染したネギは長い楕円形の黄白色、大型の病斑が生じて表面に白いカビが生じる
- 排水が悪く低温のほ場や日陰で風通しの悪いほ場では発生しやすい。



ネギべと病



**【防 除】** • 畑全体に発生してからの薬剤散布では手遅れになるため早期防除を行う。  
• 高畝で栽培する。

適用農薬	希釈倍数	使用時期	総使用回数
プロポーズ顆粒水和剤	1,000倍	収穫14日前まで	3回以内

### カラスノエンドウ

種子で繁殖する一年草で、10月頃出芽し幼植物で越冬する。種子が大きく、田の畦畔や空き地、道端など日当たりの良い場所に多く、そこから畑や水田に侵入する。子葉は地上に現れない。幼植物は基部で分枝し、全体小型で地を這う。秋に発生し、翌春茎が多数に分枝してかぶになり、高さは50~100 cmになる。4~6月に短い花柄のある紅紫色の花をつける。果実は莢状で熟すと黒色。名前の由来はこの黒い果実からといわれている。

### 防除のポイント

出芽深度が深く、出芽も長期間続くため、生育期に除草剤を使用する。また、成熟した種子は広範囲へ飛び散るため、結実前に防除する。



カラスノエンドウ



カラスノエンドウ(花)



カラスノエンドウ(果実)

### ワルナスビ

アメリカ原産の帰化植物で、家畜の飼料に種子が混入して伝播した。種子と根で繁殖する多年草で春に萌芽する。夏期に開花結実し、霜が降りると地上部は枯死するが、果実は枝についたまま越冬することがある。土壌中の種子の寿命は長い。地下部の繁殖器官は地下茎と根からなる。畑地、荒地、道端などに生育し、土壌環境に対する適応性も高く耐寒性も高い。茎葉にとげがあるため非常にやっかいな害草となる。

### 防除のポイント

生育初期のうちに地下部まで掘り取る。生育期間に地上部を5回以上刈り取ると種子繁殖を抑制できる。除草剤等で防除を行う。侵入を防ぐための防除と初期防除が重要となってくる。



ワルナスビ



花と茎葉にあるとげ



ワルナスビ(果実)